令和８年度企画展

相双の和紙 ―づくりと暮らし―



↑和紙づくりのようす
『はらまち市政だより』第77号（昭和38年5月）より。

令和８年
12月12日（土）

令和９年
3月22日（月・祝）

期間中の無料開館日
1月11日（月・祝）
成人の日にちなんで

企画展関連行事

いずれの行事も参加無料。

1．紙すき体験　※申込みが必要です

有名な和紙の特産地から講師を招きます。
各回定員12人（先着順）。対象：小学生以上
申込先：当館TEL 0244-23-6421

①遠野和紙（いわき市）
1月16日（土）13時30分～15時30分
講師：伝統工芸遠野和紙・椿保存会派遣講師

②上川崎和紙（二本松市）
2月11日（木・祝）13時30分～15時30分
講師：二本松和紙伝承館派遣講師

2．展示解説会　※申込不要

展示を担当した学芸員が解説します。
①1月23日（土）　13時30分～15時
②2月27日（土）　13時30分～15時



↑漉桁（すきげた）　館蔵

【開館時間】午前9時～午後4時45分（最終入館は午後4時まで）
【休館日】毎週月曜日。ただし、1月11日（月・祝）は開館、翌12日（火）休館。
年末年始：12月28日（月）～1月4日（月）
【観覧料】一般400円（350円）　高校生200円（150円）　小・中学生100円（80円）
（　）内は20人以上の団体割引料金
※南相馬市と飯舘村に居住・通学する小・中学生、高校生は無料。
障がい者・難病等の方と付き添いの方1人、生活保護世帯の方は無料。証明書等をご提示ください。

博物館公式WEB

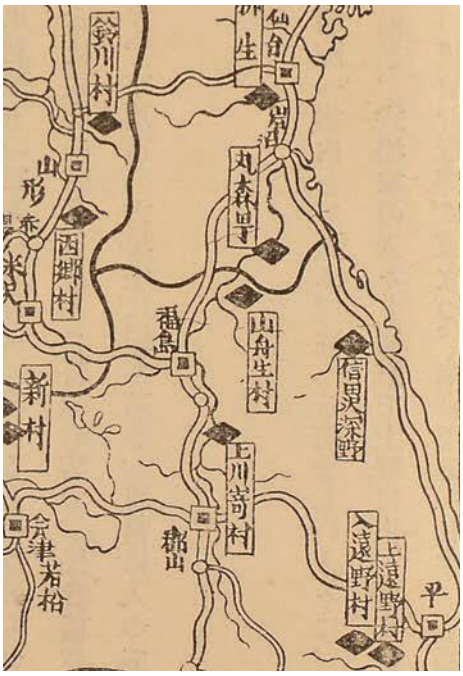
南相馬市博物館
〒975-0051　福島県南相馬市原町区牛来字出口194番地
TEL 0244-23-6421　FAX 0244-24-6933

相双の和紙づくりとは

相双地方※では、昭和40年代まで、おもに地元で使われる障子紙などの手すき和紙がつくられていました。和紙づくりはあくまで農家の副業のひとつでしたが、和紙原料の楮（こうぞ）と、すきあがった和紙の物々交換のような仕組みがあったり、和紙特産地の紙すき職人をわざわざ雇って収益を得ていたり、ほかの副業にはあまり見られない特徴があります。

展示では、近世から近代の記録や実際に使われた道具、和紙の実物を通し、相双地方の暮らしにとって、和紙づくりとはどんな生業であったのか、その実態にせまります。

※本企画展では、おもに相馬市、南相馬市、浪江町の和紙づくりを取りあげます。



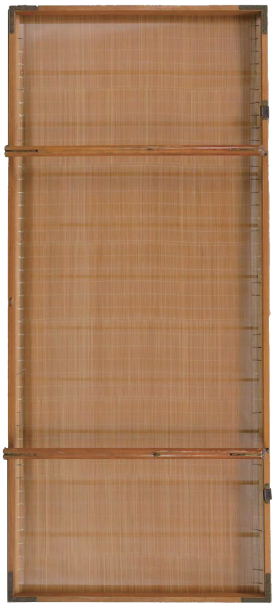
↑和紙の産地として、「信田沢 深野」（いずれも南相馬市原町区）が記された地図。壽岳文章『紙漉村旅日記』（昭和19年発行）より。芹沢銈介 画。


↑楮の若木


↑楮を蒸かすために使う釜

展示内容


↑表皮を取り除いた楮皮


↑大型の漉桁（すきげた）

序　章：相双の紙すき村
壽岳文章（じゅがくぶんしょう）『紙漉村旅日記』に記された、相双の紙すき村のようす。

第１章：相双の和紙づくりの歴史
近世から近代にかけての、和紙づくりの盛衰。


↑楮叩き棒と叩き台

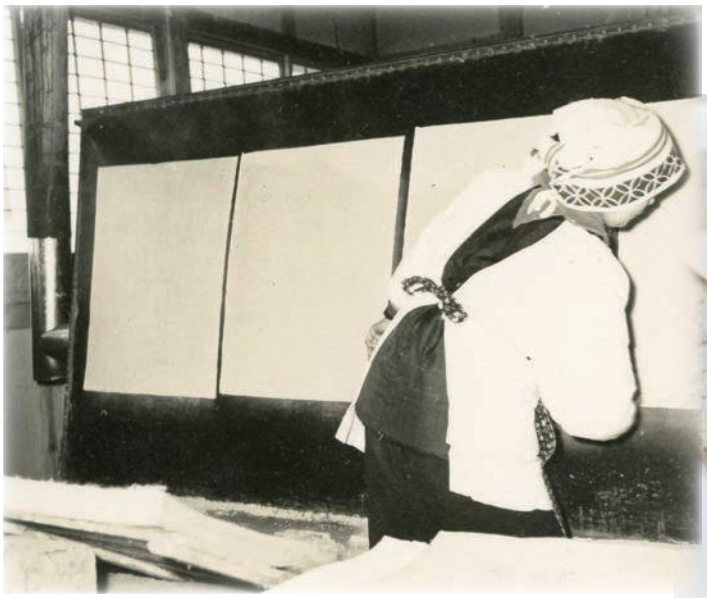
第２章：楮をめぐる仕事
和紙づくりの前半戦。刈り取った楮が紙料になるまで。

第３章：紙をすく
和紙づくりの後半戦。技術が必要な紙すきから、乾燥、裁断まで。


↑和紙を干板に貼り付ける刷毛

第４章：和紙づくりと暮らし
暮らしのなかの和紙製品と、和紙づくり農家の暮らし。

終　章：和紙づくりのいま、これから
和紙特産地でつくられた現代の和紙。


←蒸気乾燥機に濡れた和紙を貼るようす
『原町市政だより』第14号（昭和32年2月）より。


↑相双地域でつくられたさまざま和紙